

## ポスト・セルハイ研究に向けて

校長 仲間 憲三

この報告書は、研究3年目の研究成果を主な内容としています。

本校は、普通科を対象に、平成18年度から本年度まで文部科学省からスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（以下、セルハイという。）の指定を受け、「英語で表現する力を育成するために、読むこと・聞くことにおける理解と定着を図り、その内容を主体的・論理的に考えさせる指導法の実践的研究開発」に取り組んでまいりました。

本指定に先立ち、国際教養科が平成15年度から17年度までセルハイ指定を受け、その研究成果を平成18年3月にまとめました。この経験を生かし、普通科の研究を進めるにあたり、内容・方法・評価方法を年度ごとにきめ細かく計画・実施・評価し、報告書も、年度ごとに刊行することとし、今回は、3回目の報告になります。

さて、国のセルハイ事業は、今年度末で終了すると聞いておりますが、稲毛高校としては、これまでの取組を踏まえ、さらに次の段階に本校の英語教育を進めていきたいと考えております。

国の動向としては、教育再生懇談会第一次報告（H20.5.26）や経済財政改革の基本方針2008（H20.6.27）、教育振興基本計画（H20.7.1）等におきましても、我が国の国際競争力強化に向けて、英語教育の抜本的強化は重要な課題の一つに位置づけられております。

それらを受け、文部科学省は平成21年度予算要求では、「新学習指導要領の円滑な実施に向けた支援策」として、小学校から高校までの英語教育をはじめとする外国語教育に関する施策を有機的かつ総合的に実施する予算を要求し、「外国語教育の充実」として約9億円の事業が政府予算額（案）として示されています。この（案）では、「英語教育改善のための総合的な教育システムの構築」のために「英語教育改善のための調査研究」を委託事業で行うとされ、その一部を略記すると、次のことが示されています。

- ・英語教育を抜本的に強化する課題を検証する研究開発校を小・中・高で指定（計550校）
- ・課題を検証するための研究開発校に対して経費の支援
- ・指定校の内訳は、小学校350校、中学校150校、高校50校
- ・高校1校当たりの予算規模は250万円
- ・セルハイ等の成果を踏まえ、文部科学省が設定する研究課題に応じた先進的な取組の支援

本校では、このような国の動きを踏まえ、ポスト・セルハイ研究として、来年度から、英語運用能力を検証するデータを収集し、コミュニケーション能力の育成に関する実践的・総合的な研究を推進したいと考えています。

最後になりましたが、これまでの本校の研究に対しまして、温かく、ときには厳しくご指導、ご協力いただいた文部科学省初等中等教育局視学官の岩井宏様、兵庫教育大学准教授の中田賀之様、和田稔委員長をはじめとする運営指導委員の皆様方、千葉市教育委員会、千葉県教育委員会の先生方に厚く御礼申し上げるとともに、今後の本校における英語教育のさらなる充実、発展のため、本報告書をご高覧、ご指導いただければ幸いです。

## 目 次

研究概要	1
1 学校概要	2
2 研究開発実施期間及び対象生徒	2
3 研究開発課題及び設定理由	2
4 研究計画	7
5 実践内容・成果・反省（1・2年次）	11
6 本年度実践内容（3年次）	14
6.1 リーディング力向上のための指導—表現（ライティング）力に繋げる方策—	14
6.2 ライティング力向上のための指導	27
6.3 リスニング力向上のための指導—表現（ライティング）力に繋げる方策—	29
6.4 リーディング力向上のための速読（パラグラフの非定型展開法）指導	31
6.5 総合的な英語力向上のための語彙指導—年17回の英単語テストを通して—	31
7 本年度実践内容の分析と考察	32
7.1 リーディング力向上のための指導—表現（ライティング）力に繋げる方策—	33
7.2 ライティング力向上のための指導	42
7.3 リスニング力向上のための指導—表現（ライティング）力に繋げる方策—	46
7.4 リーディング力向上のための速読（パラグラフの非定型展開法）指導	51
7.5 総合的な英語力向上のための語彙指導—年17回の英単語テストを通して—	53
8 研究組織	57
9 外部講師による講演	59
10 視察	60
11 運営指導委員会	60
12 実地調査	65
13 研究のまとめ（成果と課題）	67
14 参考文献	69
巻末資料1	70
巻末資料2	96
巻末資料3	98
巻末資料4	103